

「京都未来まつり2011」特集

10月23日(日)、新風館において、「京都未来まつり2011」が開催されました。時折雨もパラつくお天気にもかかわらず多くの方にご来場いただき、100人委員会が用意した多数の催しを通じて、ゲストの皆さんと共に京都の未来を考えました。当日あいにく参加できなかった方、或いは「当日は自分たちの企画で手一杯だった～」という方、今一度紙面で「京都未来まつり2011」を楽しんでください。



ごあいさつ モデル形成部会 部会長木村壽夫

委員会の皆様、京都未来まつり、は大変おつかれさまでした。統括にあたりましたモデル形成部会のメンバーを代表して皆様の努力に敬意を表すとともに運営に対するご協力に感謝申し上げます。当日は行き届かないこともございましたが各部会、プロジェクトチーム等の周到な準備と的確な判断で見事な仕上がりをご披露いただきました。この成功には多くの関係者のご協力、ご尽力がございましたことをあらためて委員の皆様にもご披露しておきたいと思っております。この成功を踏まえ、今後とも京都市における市民参加の推進のため各委員が様々な分野、地域でご活躍いただけるものと確信しております。皆さん、この勢いで12月の成果発表会に流れ込みましょう！



朝の打ち合わせ風景



クロージング。みんな心なしか誇らしげ？

「まちの縁側」ってご存知ですか？

～パオの製作体験と「まちの縁側」体験してみませんか？～

手作りのパオ(モンゴルの移動式住居ミニ版)の製作ワークショップでは、慣れない作業に手こずりながらも、皆さん和やかな雰囲気で作業は進み、完成時には大きな歓声が上がりました。パオの中は一日だけのまちの縁側。そこは外とは別空間。広々6人は入れるスペース、思っていたよりも暑くはなく、時折、心地よい風が通り抜ける中を、円形の中を向かい合う形で様々な人と人が座りあいます。お昼頃に行われた、モンゴル民謡と馬頭琴の演奏ではまさに、モンゴルの大草原の中に佇んでいるかのような気持ちになりました。



パオの中では、子どもから大人まで、まったくくつろげ、知らない人同士でも自然と会話がはずむ「まちの縁側」が見事に生み出されていました。

3階テラスではパオの他にも、mocomoco caféさんによるコーヒーとシナモンジンジャーティーや季節のフルーツパウンドケーキの販売やハルハウスさんの野菜たっぷりな雑炊の試食が行われました。どちらも大好評で、3階テラスを訪れた多くの方がmocomoco caféさんとハルハウスさんの両方に行ったようです。

テラスのステージで行われていたのは、京まちづくり講演会。京都のまちづくりに関わってきた京都市未来まちづくり100人委員会の方の様々な講演会を行ないました。皆さんのまちづくりにかける熱い思いに協働の在り方を改めて考えさせられました。(寄稿 つながるKYOTOプロジェクト 要木建人さん)

レンアイ結婚大会議 ～新しいカタチの出会いの場～

当日参加も含め、38名の参加が集まったレンアイ結婚大会議、我々が北川課長が作ったpopで可愛い「まちづくりで婚活紙芝居」を柗木さんが読みあげるところからスタート。小じやれた駄洒落に参加者からも笑いが。



続いては、活性化部会の栗山さん、篠原さん、さらには司会の柗木さんを交えての結婚トーク。結婚してからの、ちょっと気になるお互いの癖や結婚に至った暴露話もちらほら。ワールドカフェでは自分たちで作ったハロウィーンのおばけカボチャを持ちながら、お互いの結婚感について話しました。「まだまだイメージできないな？」という方もおられたようですが、沢山の人と話すだけでなく、結婚についていろいろな考えを交換して楽しめたようでした。最終的にはとっておも似合いなカップルが一組誕生しました！それ以外にもご飯を食べに行くグループも見られ、新風館の出会いから未来の京都市民が生まれることを願うばかりです！(寄稿 活性化部会 丹羽妙さん)

友禅型染体験

当日は親子連れを中心に、50名ほどの方がブースを訪れ、伝統工芸士である和田委員の指導のもとハンカチの型染めを体験しました。



前回行なった堀川桜まつりの時は子供さんが多かったのですが、今回は着物の御婦人方から婚活に参加しに来た大学生まで、幅広い世代のかたに楽しんでいただきました。なかには京友禅の歴史や染め方などを熱心に聞かれる方も。

京都の伝統工芸のひとつである京友禅の素晴らしさに多くの方が実際に体験して触れることができたのではないのでしょうか。

(寄稿 (京の七夕・堀川に生かす)伝統工芸プロジェクト 学生PS 鳥塚早葵さん)

ハローライフ ～ライフスタイル相談所～

「100人委員会が他の審議会への懸け橋になる」夢は、なかなか取り組めていなかった、活性化部会長マニフェストでした。【ハローライフ～ライフスタイル相談所】には、「若者会議U35」から川原ちかよさんはじめ7人、「戦略的自殺対策共汗WG」メンバーからも小林弁護士・中山京大教授はじめ7人、なんと計14人がボランティアで助っ人に！「まちの縁側と協力できそうやね」というような声も、今まで100人委員会を知らなかったスタッフから貰えたことは嬉しかったです。まちあるきやプレママ体験を終えた方も、ふらりと来てくださっていて、一緒に「働き過ぎチェック」をしたり「ライフスタイルマップ」を描いたりしました。(寄稿 活性化部会 深田雄志さん)



森のクラフト工房

木を削る、やすりにかける、組み合わせる、自分の思い思いに思いを形にする、テントの下で。ふと懐かしくなる。周りは人で溢れていて。

年は離れているし、名前も知らない子どもたち相手に、感じた確かなもの。

つながり、笑顔、温もり、願い、京都のあるべき未来。山紫水明の京都は森のクラフト工房、ジビエしかにくフェアを企画し、盛況のうちに終わりました。

まずクラフト工房では、お客さんにこちらで用意した桜の木の枝や、木材のパーツを自由に組み合わせ、キーホルダーやミニ看板、置物をつくってもらいました。クラフト工房には子どもを中心にたくさんの方々にご参加いただきました。初めはカッターで削ることすら危なっかしくて肝を冷やしていた子どもたちがこちらの想定していなかったようなすばらしい作品を仕上げると、それを見守っている側として今度は胸が熱くなりました。また、最初は「ほお、なつかしいなー、ふーん」という大人の方でも一度木を手にとってやってみると、それ以来没頭して作業にあたっていました。クラフトには不思議な魅力があるみたいです。



京都の未来を肉から考えよう！京の森の天然ジビエしかにくフェア

昼ご飯は、ちゃっかり鹿肉カレーをナマステ タージ・マハルまで食べに行きました。予想にたがわぬおいしさで友だちと讚辞しきりでした。複数店でメニュー展開がありましたが、好評をいただいたようでよかったです。この日に向けて手配や調整をされ、当日も山紫水明にとどまらず様々な場面で尽力、ご活躍された山紫水明のみなさんひとりひとりに感謝します。おつかれさまでした。

最後に、未来まつりを通じてみなさんの熱心な京都への思いを感じることができました。テントの下で子どもたちが思いを形にしたように、京都のあるべき未来がいつか形になってゆければ。クラフトのように目に見えるものだけをつなぎ合わせるわけではないので難しいのだけれど、この思いが一過性にならないように僕も微力ながら明るい京都の未来をつくっていきたいと思います。

(寄稿 山紫水明の京都プロジェクト 学生PS 山本善郎さん)

プレママ体験パレード

新風館は階段がたくさんあって、プレママ体験にはいいはず！えっちらおっちら階段を上り下りする姿がばあっと浮かびました。スーツの数は13！ひとつの重さは10キロ、臨月時の羊水+胎盤+赤ちゃんとはほぼ同じ重さです。ベルトを腰の下あたりにしっかりと巻きつけるのがポイント。そうしないと、いきなり生まれそうな大きさのお腹を支えるのは難しく、腰がすぐに痛くなります。

わいわいとステージ脇で装着、全員で大階段を上がって3Fのパオを見学、回廊をぐるりとしてからまた階段を下りてゴール。多くのプレママがそうであるように、体験者の人たちもゆっくりと、そして自然とガニ股で歩いていました。

インタビューでは「奥さんに優しくします」「お母さんに感謝」と、もうすぐ赤ちゃんが生まれる方からは「体験してよかった」という声が聞けました。(寄稿 にこにこステーション【京都(°o°)/にこわく】篠原幸子さん)



国際交流フェスタ写真館 (寄稿 観光・交通部会 松石敏治さん)



京都市動物園のいま、むかし、みらい

人と動物の共生を目指す動物園チームは、「京都市動物園のむかし・いま・みらい」をテーマに、子どもからお年寄りまで幅広い市民の方々に京都市動物園の良さを実感してもらおうと特性ダンボールパネル、模型、映像を使って表現しました。入口で展示したこともあって多くの方が足を止めてくださり、その方々からメッセージを頂いて「市民と京都市動物園に架ける虹の架け橋」が完成させることができました。また私の勤務先である大阪市立デザイン教育研究所の学生が有志で参加してくれ、来秋完成予定の「もうじゅうワールド」の模型を制作してくれました。「いきたい！」という言葉を直接いただけたのは、学生にとって何よりも学びになったことと思います。多くの人を巻き込んで多くの人に見ていただける展示にでき、関係者の皆様から心からお礼を申し上げたいと思います。(寄稿 人と動物の共生を目指す動物園チーム 井上翔一さん)



京都大震災！？ ～みんなのキズナ～を振り返って～

はじめに萩原三義さんによる防災訓練の参加についての簡単なアイスブレイクを行いました。その後、7月23日の「京都大震災！？ ～みんなのキズナ～」のワールドカフェでテーブルホストを務めた松本修司さん・長澤哲也さん・絹川雅則さんの3名に、各テーブルで議論の中心となった論点について紹介してもらいました。

具体的には、松本さんには「子供の避難」、長澤さんには「要援護者の支援」、そして絹川さんには「マンション居住者の協力関係」の各問題について紹介していただき、今後どのような取り組みを実行していく必要があるかについて論じていただきました。残念ながら、来場者は多くなかったですが、振り返り自体は充実したものとなりました。(寄稿 福祉・コミュニティ部会 石盛真徳さん)

京まちづくり講演会

京まちづくり講演会は、100人委員会のメンバーに100人委員会以外で行なっておられるまちづくり関連の講演を行っていただきました。

みなさんの活動それぞれが素敵なおものであり、講演会そのものも熱のこもったものになりました。また、観客席からも質問が飛び出すなど大いに盛り上がりしました。100人委員会メンバーの活動の多彩さを知ることでも非常に有意義な講演会だったと思います。(寄稿 福祉・コミュニティ部会 小辻寿規さん)

100人×学者 ～未来の社会の話をしよう～

「100人×学者～未来の社会の話をしよう～」では、本企画代表者の小辻さんの趣旨説明の後、コーディネーターの片岡稔氏(立命館大学研究部プロジェクトマネージャー)の進行により学生パネリスト4名(西沢ゆめの氏: 佛教大学、三浦由加里氏: 同志社大学、南川沙紀氏: 京都大学、諸岡聖氏: 立命館大学)の現在と未来に対する疑問に「学者」として、立岩真也氏(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)に「人生の先輩」として、中谷香氏(文化市民局男女共同参画推進課長)木村壽夫氏(モデル形成部会長)特別ゲストとして、北川洋一氏(総合企画局市民協働課長)にお答え頂きました。自らの立場からの意見を出し合い、交流してゆける場を今後も継続して持つ事が出来ればよいと考えます。詳細は、100人委員会HPの「京都未来まつり2011」でご覧になれます。(寄稿 福祉・コミュニティ部会 萩原三義さん)



まちなかあるき「京町家」見学ツアー

「あんぶら」といえば「まちあるき」、中京で「まちあるき」なら京町屋、京町屋なら景観・環境部会ということで、共催をお願いして京町屋ツアーを実施しました。ただし、景観・環境部会は13時からフォーラムがあるので、その前の昼時にしか時間が取れません。そこで企画したのが、お弁当つきツアーです。

参加者は31名。家族連れから、町屋の保存に取り組む方々まで、多彩な人に参加していただきました。六角堂にお参りした後、三条通釜座町の町屋と、さいりん館(まちづくり活動に使われている町家)を見学しました。その道中も、町の角々に景観・環境部会の冨家さんと内藤さんによる、町屋の解説が行われました。さいりん館で食べるお弁当は、気持ちよく、美味しく、大好評でした。町屋を見るだけでなく、使うことの良さが味わえたツアーでした。(寄稿 歩きたくなるプロジェクト『あんぶら』 宇野通さん)



歩きたくなる京都パネルクイズ「これはどこにある？」

「あんぶら」メンバーは、まちなかにある変なものを、まあよく知っている。ということで、まちなかの面白いものクイズを写真パネル展示というかたちで開催しました。それが、パネルクイズ「これはどこにある？」略して「コレドコ」。ウォーキングイベントでもそうですが、「あんぶら」は京都のまちにあるものを、存分に活用させていただいております。

写真を貼り付けただけのところから、設営業者の方々が目に来てくれ、老若男女、多くの方々に楽しんでもらえたようです。おもわずプツとふきだしてしまうもの、ホーツと感心してしまうもの、何やるこれは？と考えこんでしまうもの。京都には面白いもんが、そこにも、ここにも、あつこにも、なーんぼでもある。歩くだけで充分楽しめるってところが、さすがなとこやね。(寄稿 歩きたくなるプロジェクト『あんぶら』 田村剛さん)

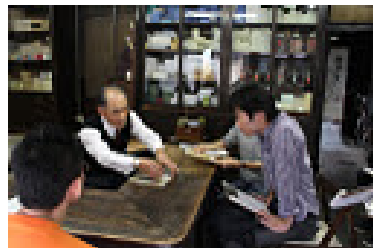
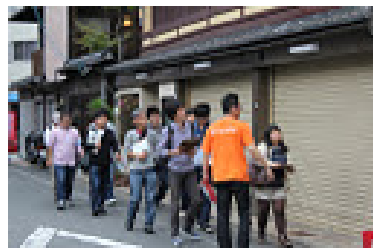


まちなみ・通りの達人をめざして！ ～三条通りをみんなで歩こう～

当日のガイドは、三条通りにあるカフェの店長さんをお願いしました。まち・通りについての説明そしてタイム・マネジメントはお見事でした。

「まちあるき」の後半、三条通りの「あるお店」に立ち寄り、お店のご主人から、三条のまちのこと、通りのこと、商店街の歴史のお話をうかがいました。ご主人が、自分の取り扱っている「商品」の話をする時の嬉しそう、誇らしそうなその表情！そしてすばらしいお人柄にふれて私たち参加者全員が心を動かされました。

今回の「まちあるき」によって、三条通りの「すばらしい住民」に出会えたことは、望外の喜びでした。(寄稿 環境・景観部会 谷口英明さん)



今月の関連イベント報告

オカシルリレー講座番外編開催！

10月27～30日に開催された「岡崎あかりとアートのプロムナード」への協賛企画として、「オカシルリレー講座」の番外特別編をクールジャパン・プロジェクトと共催しました。当日は総勢43人にご参加いただきました。

コースは3つ。イベントコンセプト「エコ×アート×コミュニティ」に沿いつつ、各日マニアックなこだわりテーマに挑戦しました。

27日はアートの日。「美術館の学芸員さんと語る岡崎アート巡りとあかりのゆべ」と題して、京都市美術館・京都国立近代美術館・細見美術館の3館を、各館学芸員のギャラリートークでハシゴし、あかり点灯式にもみんなで参加。定員20人の少人数限定だったため「ただ聞くだけでなく、学芸員さんと身近に話せてワクワクした」と喜ばれました。

29日の「クイズしながら明るい夜の岡崎を見に行こう！岡崎・疏水楽百年之夢」は、疏水がテーマ。プロガイド上田真由美さんの絶妙トークに「へえ～」の連発で、当時の写真や絵図を多用したリアルな解説も大好評でした。

30日は京都と岡崎の成立と変遷を学ぶ「名勝無鄰菴と平安神宮で語る 祝祭の岡崎100年史」。コミュニティがテーマでちょっとコムズカシイかな…という私達の心配をよそに、意識の高い参加者が集まり、講師の中川理工織大教授やゲストスピーカーの本多和夫平安神宮禰宜も驚かれるほど濃厚な議論になりました。

明治時代、疏水完成祝賀の際は、祇園祭の鉦を勢揃いさせ、大文字にも火をつけて、揃いの詠え浴衣で三日三晩踊りあかしたそうです。明治の京都、岡崎の過去って、実はほとんどないワンダーランド？ そんな失われ(かけ)た町の記憶と魅力をさぐるのが「オカシルリレー講座」です。今後も不定期開催していきますので、引き続きよろしくお祈りします。(寄稿 岡崎ホールディングス 福田容子さん)



「にこわく(^o^)/フェスティバル ～プレママ・プレパパ大集合！！～」開催！

11月6日(土)の11時過ぎに、子どもみらい館で開かれた「にこわくフェスティバル」に参加してきました。

まず、絵本コーナーで紙芝居を見ました。ノートルダム小学校図書サークルのお母さん15人くらいの熱演で、紙芝居というより劇団四季みたいで感激しました。

子どもも大人も見目がいきいきしていたのが印象的でした。会場内のカフェのシフォンケーキもカフェインレス珈琲も美味しかったです。

次はプレパパ道場に参加しました。もうすぐパパ1人、彼女いない2人、パパ経験者、ファザーリングカンパニーメンバーの10人くらいで子育て経験を話し合いました。男女はもちろん、人の心は、みんな違うことがわかればいいんだと思いました。

次はプレママ経験パレードで、お腹にオモリを付けて妊婦さんになって、町中を歩きました。すごく重くて肩が凝って、男にはできない仕事やなと思いました。丸太町通を渡るときはビートルズのアビーロードのジャケットになってました。

夕方から前の広場でアフリカバンドの演奏があって、とてもためになる半日でした。打ち上げは3次会まで参加して、これもすごく楽しかったです。(村木)



すごい熱気



まさに熱演!



これぞリアルアビーロード?!

編集後記

今月は編集担当もそれぞれ企画があって全然取材に行けないので皆さんにご寄稿いただきました(手抜きという話もありますが。。^^;)。あらためて多彩な企画があったなあと感じます。ご寄稿いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

来月でよいよ第三期も終了、みつばち通信もお別れになりますので、最終回企画として皆さんから一言(一言)!を集めたいと思っています。この一年を振り返ってのひとこと、どうぞお寄せください。今月もイベント等の予定がございましたらお知らせください。取材等のお問い合わせを含め、連絡先は、vitalization2011@gmail.comです。(早崎)